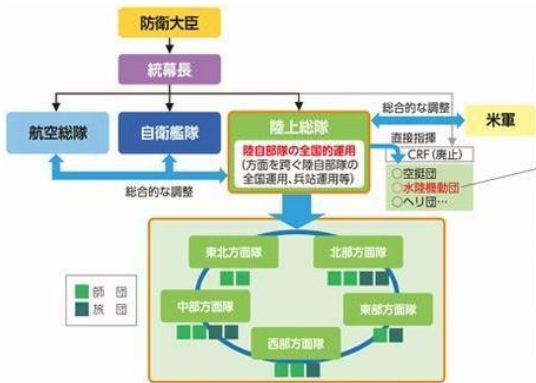


③新たな日米物品役務相互提供協定（ACSA改訂）

○日本が直接攻撃を受けていない場合でも米軍への弾薬などの提供を可能に ○重要影響事態、国際平和共同対処事態、集団的自衛権をみとめた存立危機事態など ○日豪、日英のACSAも締結。仏、カナダとも交渉中 ○弾薬や発進準備中の航空機への給油、整備など



軍拡の実態 3：自衛隊組織改編

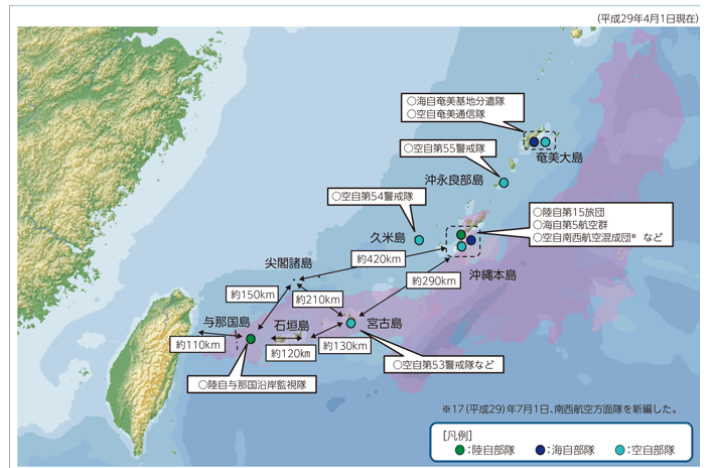
陸上総隊：全国に5つある陸自の方面隊を一元的に指揮し、海上、航空自衛隊さらに米軍との調整機能を担う 司令部は朝霞駐屯地 日米共同部はキャンプ座間 3月27日発足。

水陸機動団：日本版海兵隊。陸上総隊直轄 AAV-7水陸両用強襲装甲車，MV22オスプレイを使用 3月27日発足。佐世保相浦駐屯地

軍拡の実態 4：南西シフト

- 与那国島：**沿岸監視隊160名 2016年3月配備
- 石垣島：**工事未着工。地対空ミサイル部隊，地対艦ミサイル部隊、警備部隊 800人（7月18日、中山義隆市長は「受け入れ」表明。
- 宮古島：**2017年10月工事開始 地対空ミサイル部隊 警備部隊 800人
- 奄美大島：**2016年9月工事開始。地対空ミサイル部隊、地対艦ミサイル部隊、警備部隊550人
- 佐世保市相浦駐屯地：**水陸機動団2018年3月発足

図表Ⅲ-1-2-7 南西諸島における主要部隊配備状況



軍拡の実態 5：次期防衛大綱

政府が年末に策定する防衛計画の大綱と中期防衛力整備計画への自民党の提言（5月25日）

- GDP（国内総生産）比1%を突破 2%を目標
- 敵基地攻撃能力の整備
 - 巡航ミサイル ヘリ空母「いずも」を改修して「多用途運用母艦」 搭載機としてF35B戦闘機
- 多次元横断（クロスドメイン）防衛構想。宇宙、サイバー領域での軍拡